

## I 策定の趣旨

県、関係機関・団体等が連携し、本県の花き振興を図るための目指す姿や基本方針、具体的取組の推進方策、品目別の推進方策等を示すもの。

### 【戦略の性格】

- **位置づけ** 「花きの振興に関する法律(平成26年12月施行)」に基づく県の計画として定めるもの。  
「いわて県民計画(2019～2028)」に基づく、花きの振興の具体的な取組計画として位置付けるもの。
- **期間** 令和5年度から令和8年度まで(4年間)

## II 現状と課題

### 【全国の情勢】

- ① 全国の花き産出額は、3,306億円とピーク時(H10、4,734億円)の70%。
- ② 高齢化や担い手不足による経営体数の減少等により、作付面積・産出額とも、減少傾向。
- ③ 花きの平均単価は、切り花・鉢花とも、横ばいから上昇傾向。
- ④ 花き(切り花)の購入金額は、全国的に減少傾向。

### 【本県の現状と課題】

#### 1 生産状況と課題

- ① 本県の花きの産出額は、42億円とピーク時(H19、82億円)の51%。
- ② 花きの作付面積は394haで、5年前のH29から8%減となっている。

#### (1) りんどう

- ① 改植事業により新改植が進んだこと等により、作付面積は横ばいで推移。
- ② 全国出荷量に占める本県シェアは、約6割となっているが減少傾向。
- ③ 出荷量を増やし、シェアを維持・拡大していくためには、気候変動への対応や、作業の省力化による経営規模の拡大が必要。

#### (2) 小ぎく、施設花き品目

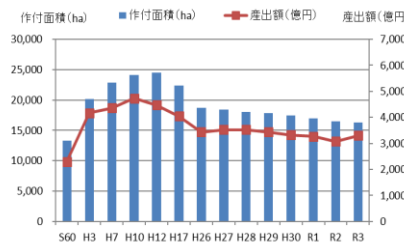
- ① 小ぎくの生産額が減少。一方、施設花き品目であるゆりやトルコギキョウの生産額は横ばいからやや増加傾向。
- ② 全国と比較し施設花きの導入が低調(全国:24%、本県:10%)。
- ③ りんどうに次ぐ、花き品目の生産拡大を図るためには、施設整備や新技術の導入を進めることが必要。

#### 2 花き経営体の状況と課題

- ① 花き経営体数は減少しており、特に小規模な経営体数の減少が顕著。
- ② 産地力の維持・拡大に向け、担い手の育成と、新規栽培者の確保が必要。

#### 3 需要の動向と課題

- ① 花き(切り花)購入金額は、全国と同様に減少の傾向。
- ② 若年層をターゲットとした活用提案や、家庭での日常的な花きの利用の拡大に向けた取組の推進が必要。



全国の花き作付面積・産出額の推移

【主要品目の生産額の推移】 (単位:百万円)

項目	H30	R1	R2	R3	R3/H30
りんどう	2,136	2,003	2,233	2,005	94%
小ぎく	547	476	450	434	79%
ゆり	144	136	141	130	90%
トルコギキョウ	70	71	71	72	103%
鉢花	240	256	267	292	122%

## IV 目指す姿

りんどうや施設花き等の生産拡大及び県産花きの利用拡大により、生産者の収益が向上するとともに、本県花き産出額が増加している。

## V 基本方針と推進方策

国の「みどりの食料システム戦略」や「農業DX構想」に掲げられている、温室効果ガスの排出削減や化学農薬・化学肥料の低減、データ等を活用したスマート農業技術の開発及び導入促進などの視点を踏まえて、以下の基本方針と推進方策に取り組む。

### 1 りんどうの生産拡大

#### (1) 生産基盤の強化

- ① 温暖化等の気候変動にも適応した、盆・彼岸向け優良品種の新改植促進。
- ② 予冷庫を利用した鮮度保持技術の導入による、需要期向けりんどうの販売拡大。

#### (2) 省力化の促進

- ロボット、AIを活用した省力化技術(自動選花機等)の開発と導入の促進。

#### (3) 新品種の開発

- ① 盆(新盆含む)・彼岸向けを中心とした、切り花品種の早期開発。
- ② 重イオンビーム等の先端技術を活用した、新たな需要の喚起や高い日持ちが期待される八重咲品種等の早期開発。



開発が進められている自動選花機械

### 2 施設花き等の生産拡大

#### (1) ゆり・トルコギキョウ等施設花きの生産拡大

- ① 開花調節や安定生産、品質向上に繋がる技術(LED電照、土壌水分モニタリング等のスマート農業技術)の導入促進。
- ② 化石燃料の使用量を低減する設備導入の支援など、省エネルギー化の取組促進。

#### (2) 小ぎくや地域特産品目(スターチス等)の生産拡大

- 新たな防除技術の導入や、優良種苗の確保などによる、出荷ロスの削減に向けた支援。

恋りんどう(いわてEB-3号) いわて八重の輝きブルー



県が開発したオリジナルりんどう品種

### 3 担い手の確保・育成と産地力の強化

#### (1) 産地の中核を担う花き経営体等の育成

- 作業の効率化や高品質生産に繋がるスマート農業技術(ICTを活用した圃場管理等)の導入による、経営力の向上支援。

#### (2) 新規栽培者の確保・育成

- 関係機関・団体と連携した相談会等の開催や、ベテラン農家が指南役となった、きめ細やかな指導体制の構築。

#### (3) 多様な人材の確保

- 農業求人サイト等を活用した人材の確保と担い手育成の支援。

#### (4) 生産部会を核とした産地の体質強化

- 「花き産地改革実践プラン」の策定と実践支援。



ベテラン農家による新規栽培者指導

### 4 県産花きの利用拡大

#### (1) 県産花きの利用拡大

- ① いわてフラワーフェスティバルの開催など、PR活動等の実施。
- ② 産直・スーパー向けの花束出荷や花きを用いた加工品の開発など、6次産業化への取組支援。

#### (2) 新たな需要の創出

- ① 県内の高校生や児童等を対象とした「花育体験」の取組促進。
- ② 海外販路の拡大に向けた市場・消費実態に関する情報の収集。



需要創出に向けた花育体験活動

## III 国の基本方針(抜粋)

### 1 花き産業の振興のための施策に関する事項

#### (1) 生産者の経営の安定

##### ① 花きの生産基盤の整備

- ・ 周年生産または生産期間の延伸が可能となる低コスト耐候性ハウスの導入の推進。
- ・ ロボットやAI、IoTを活用したスマート農業技術の導入推進。

##### ② 知的財産の適切な保護及び活用

新品種育成や、生産拡大に関する新技術の開発及びこれらの普及実用化の取組の支援。

#### (2) 研究開発事業の実施に関する基本的な事項

耐病性、高温耐性、日持ち性等、従来の品種にない優れた機能や形質を有し、我が国の花き産業の国際競争力の強化に資する新品種の育成。

### 2 花きの文化の振興、需要の増進のための施策に関する事項

- (1) 公共施設等での花きの活用推進、小学生等を対象にした「花育」の支援。
- (2) 花きの展示会、品評会等の開催、消費者ニーズを踏まえた商品情報の提供。切り花の日持ちを保障する販売の確立等。

## VI 数値目標

花き産出額:42億円>50億円(生産農業所得統計)、 りんどう作付面積:223ha>270ha(花き生産出荷統計)